

定期作況報告

(第3号 平成19年7月20日現在)

北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

6月下旬：最高気温は平年より 1.1 低く、最低気温は平年より 1.0 高かった。降水量は平年より 17.6mm 少なく、平年対比 31%であった。降水日数は平年より 1 日少なかった。日照時間は平年より 25.8 時間少なく、平年対比 51 %であった。夏日(最高気温 25 以上)は 1 日であった。

7月上旬：最高気温は平年より 2.5 高く、最低気温は平年より 2.3 低かった。降水量は平年より 39.9mm 少なく、平年対比 1%であった。降水日数は平年より 4 日少なかった。日照時間は平年より 55.9 時間多く、平年対比 251 %であった。夏日は 6 日間であった。

7月中旬：最高気温は平年より 1.1 低く、最低気温も平年より 3.3 低かった。降水量は平年より 47.5mm 少なく、平年対比 11%であった。降水日数は平年より 4 日少なかった。日照時間は平年より 23.8 時間多く、平年対比 157 %であった。夏日は 4 日間であった。

6月下旬から7月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	6月下旬			7月上旬			7月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	23.1	24.2	1.1	26.5	24.0	2.5	24.5	25.6	1.1	24.7	24.6	0.1
最低気温()	14.2	13.2	1.0	12.0	14.3	2.3	12.6	15.9	3.3	12.9	14.5	1.6
平均気温()	18.3	18.4	0.1	18.8	18.8	0.0	17.8	20.4	2.6	18.3	19.2	0.9
降水量(mm)	8.0	25.6	17.6	0.5	40.4	39.9	6.0	53.5	47.5	14.5	119.5	105.0
降水日数(日)	3	4	1	0	4	4	1	5	4	4	13	9
日照時間(h)	27.0	52.8	25.8	92.8	36.9	55.9	65.3	41.5	23.8	185.1	131.2	53.9

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : やや良

事由：幼穂形成期は平年に比べ中苗で3日、成苗で5日早かったものの、その後の低温により生育進度はやや緩慢となり、止葉期は各品種・苗とも平年より1日早い程度となった。

7月20日現在の主稈葉数は中苗が平年よりわずかに少なく、成苗は平年並であった。㎡当たり茎数は各品種、苗とも平年より10～20%程度多かった。草丈は中苗が平年より2cmほどわずかに低く、成苗は平年並であった。

以上、生育進度はほぼ平年並になったものの、6月に引き続き㎡当たり茎数が平年より多いため、目下の作況は「やや良」である。

表2 生育期節

品 種 苗	幼穂形成期(月・日)			止葉期(月・日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	6.27	6.30	3	7.16	7.17	1
ほしのゆめ 中苗	6.26	6.29	3	7.14	7.15	1
きらら397 成苗	6.22	6.27	5	7.13	7.14	1

注1) 平年値は平成12～18年7カ年のうち平成13年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて「早」を示す。

3) 幼穂形成期の判定基準：全主稈幼穂長2mm

4) 止葉期：全茎の40～50%の止葉が展開した日

表3 7月20日現在の本田生育

品 種 苗	主稈葉数(枚)			茎数(本/㎡)				草 丈(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較
きらら397 中苗	11.0	11.3	0.2	1016	842	174	121	64.9	67.4	2.5
ほしのゆめ 中苗	10.0	10.3	0.3	975	873	102	112	72.3	74.3	2.0
きらら397 成苗	11.2	11.2	0.0	967	813	154	119	71.8	71.9	0.1

注1) 平年値は平成12～18年7カ年のうち平成13年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて「減」を示す。

2) 秋まき小麦 : 平年並

事由：出穂期は平年より1日早かった。6月下旬以降、まとまった降雨が無かったため、登熟は速やかに進み、成熟期は平年より2日早い7月16日であった。稈長は平年より短かった。干ばつ傾向に推移したことから穂数と穂長の大幅な低下が懸念されたが、成熟期における穂数が平年比95%であり、穂長は平年より長い。

したがって、目下の作況は平年並である。

表4 7月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名	出 穂 期 (月日)			成 熟 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ホ ク シ ン	6.9	6.10	1	7.16	7.18	2

品 種 名	稈 長 (cm)			穂 長 (cm)			穂 数 (本/m ²)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ホ ク シ ン	78	85	7	9.3	8.4	0.9	622	656	34

注1) 平年値は、前7か年中、平成13年、14年(収穫年度)を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を、 は平年より減を示す。

3) 大豆 : やや不良

事由：開花期は平年より2日早かった。6月下旬以降、降水量が著しく少なかったため、生育がやや抑制され、主茎長・主茎節数は平年を下回っている。一方、分枝数は平年をやや上回っている。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表5 7月20日の大豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	7.10	7.12	2
トヨコマチ	7.8	7.10	2
ユキホマレ	7.9	7.11	2

品 種 名	主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数(節)			分 枝 数(本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	48.7	55.6	6.9	9.3	9.9	0.6	8.7	6.6	2.1
トヨコマチ	55.5	60.6	5.1	10.4	10.8	0.4	7.6	6.9	0.7
ユキホマレ	56.2	57.0	0.8	10.2	10.3	0.1	6.8	5.7	1.1

注1) 平年値は前7か年中、平成14年、18年を除く5か年の平均値。ただし、「ユキホマレ」については平成13年から18年の6か年の平均値で、参考値である。

2) は平年より早を、 は平年より減を示す。

4) 小豆 : やや不良

事由：平均気温は、7月中旬が平年より低かったが6月下旬と7月上旬は平年並であり、7月上旬の最高気温は平年より2.5高かった。このため、開花期は平年より3～4日早く、本葉数は平年並である。しかし、前節以降、干ばつ傾向に推移したため、主茎長は平年よりかなり短い。分枝数は「エリモショウズ」が平年並、「サホロショウズ」は平年よりやや多いが、両品種とも全体の生育量は少ない。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表6 7月20日の小豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月.日)		
	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	7.16	7.19	3
エリモショウズ	7.18	7.22	4

品 種 名	主 茎 長 (cm)			本 葉 数 (枚)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	19.1	26.9	7.8	7.4	7.6	0.2	6.1	5.0	1.1
エリモショウズ	20.7	26.0	5.3	8.2	8.0	0.2	5.1	4.9	0.2

注1) 平年値は、前8か年中平成15年(最豊)、16年(最凶)、12年(茎疫病発生)を除いた5か年の平均値。

2) は平年より早を、 は平年より減を示す。

5) ばれいしょ : 不良

事由：開花始は平年より1日遅かった。茎長は平年並みであるが、降水量がきわめて少なく経過したため、塊茎の肥大は遅れている。上いも収量は平年比55%ときわめて少なく、一方でん粉価は15.7%で平年より2.8ポイント高い。

したがって、目下の作況は不良である。

表7 7月20日のばれいしょの生育

品種名	開花始(月日)			茎長(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	6.25	6.24	1	48.7	48.4	0.3

品種名	上いも数(個/株)			上いも平均一個重(g)			上いも収量(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	6.3	10.3	4.0	59	67	8	1649	2998	1349

品種名	でんぷん価(%)		
	本年	平年	比較
男爵いも	15.7	12.9	2.8

注1) 平年値は、前7か年中、平成14年、16年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。